

科目名	声楽研究 I ～VIII	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	3	年次	1, 2, 3, 4

＝授業科目の目標＝

自然な無理のない呼吸法を習得する。発声のテクニックを向上させることと共に様々な音楽様式を理解し、想像力豊かに解釈して音楽表現を探究することができるようにする。

音楽の社会的貢献を認識し、音楽文化の発展向上に努めることができるようにする。

＝履修の条件と学習の方法＝

体調管理に留意して、健康な状態で臨むこと。

時間を厳守し、遅刻や欠席の場合は連絡すること。

日々の練習を怠らず、図書館などで楽曲に関連する文献を読む。あるいは音源を参考にする等々活用して、必ず予習をしていくこと。

＝授業内容＝

(1年次)

1期 学生の個性、進度をふまえた上で、基礎となる自然な発声法を習得させる。ヴォカリーゼによる練習曲 (Concone, Panofka, Lütgen 等) を適宜用い、歌唱の基本を習得させる。

2期 基礎となる発声法の習得をしながら、同時に古典イタリア歌曲等により、具体的に声楽作品に触れ研究していく。

(2年次)

3期 発声テクニックの向上をめざしつつ、イタリア歌曲、ドイツ歌曲、フランス歌曲等、様々な音楽様式を理解できるようにする。

4期 広く多くの作品に触れ、解釈を深め、音楽表現を探究していく。「ピアノ声楽演奏会」のオーディションを目標に実力を発揮できるように試験に臨む。

(3年次)

5期 さらなる声の成熟を求め、より豊かな表現力を追求する。歌曲と同時にオペラアリア等も取り入れていく。

6期 発声テクニックの向上をめざしつつ、歌曲、オペラアリア共にレパートリーを広げてゆく。各種オーディションを視野に入れ、目標に向かって研究を深めていく。

(4年次)

7期 各種オーディション、演奏会など、発表の場が増えてきますので基礎となる呼吸法、発声法を見失うことなく、さらにレパートリー作りをしてゆく。

8期 成熟を深めた声と、より豊かな表現力により、広く多くの作品の解釈を深め、研究していく。集大成である卒業試験で、実力が発揮できるよう十分な準備、努力が必要です。

＝成績評価の方法と評価の基準＝

学期末定期実技試験により評価する。

3、4年次春学期は各担当教員が出席状態、積極性などにより総合的に判断し、評価する。

出席日数が3分の2に満たない場合は受験資格喪失となる。

＝その他＝

特になし